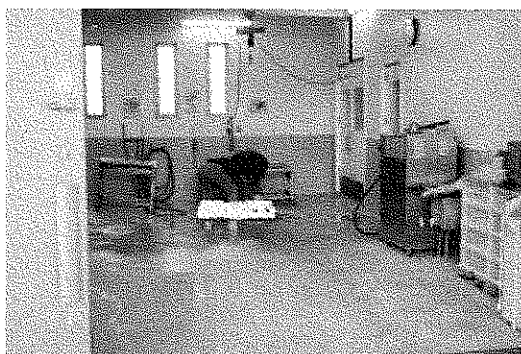
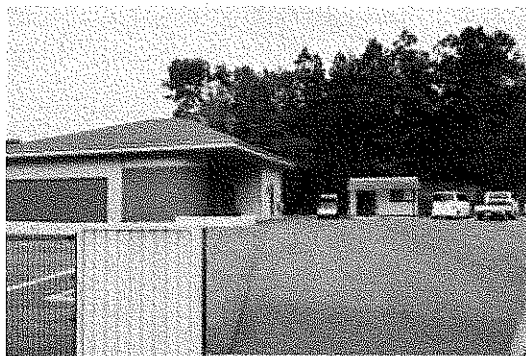


近年、有害鳥獣の被害が増え、特にイノシシによる農作物被害は深刻です。民家の庭先や市街地に出没するなど住民不安も広がっています。そこで、平成28年1月25日～26日、宗像・福津・宮若の3市と岡垣町が共同で建設した「宗像市外2市1町鳥獣加工処理施設」の視察を実施したので、以下に報告する。

この施設では、捕獲後の鳥獣を円滑・適正に処理。また、その一部を食肉として有効利用できるように加工。駆除従事者の駆除後処理の省力化、駆除意欲の向上、従事者数の確保につなげ、さらなる捕獲を指すというものです。



この施設の整備で、イノシシのさらなる捕獲が進み、農作物の被害減少、住民生活の安全確保が図るとともに捕獲後のイノ

シシを効率的、衛生的に処理し、その肉を販売するなど有効活用されています。

本施設は、地元猟友会などでつくる組合に委託され、捕獲後の鳥獣を円滑・適正に処理し、イノシシを捕獲することで農作物被害の減少や住民不安を取り除くこと、イノシシ肉の利活用を目指しています。また、食肉としての販売ルートを確立を目指している。

「道の駅 むなかた」は、福岡市と北九州市を結ぶ国道 495 号沿線に位置している。白砂青松 100 選にも選ばれた玄海国立公園「さつき松原」に隣接し、玄界灘を一望できる眺望に優れた癒しの空間です。



物産直売所「みあれ玄海」では、県内でも屈指の漁獲高を誇る鐘崎漁港をはじめ、神湊、大島、地島の各漁港から新鮮な魚介類が直売されており、食堂では旬の魚と野菜を中心とした魚の煮付け、焼き魚などの

漁師料理と惣菜の農家料理がカフェテリア方式で提供されています。

今後の経営課題としては、利用者数の増加が望まれ、売り上げの向上による黒字経営を求めているが、公共施設としての利用者の休憩や情報提供、非常時の安心拠点としての



公共サービスが十分な担保となっていることが不可欠である。そのための経営努力がな

されてきている。

また、施設の老朽化（耐震改修やバリアフリー、汚れへの対応）、利用者のマナー違反（破損、汚損、盗難、ごみ捨て、駐車場への長時間占拠）、出荷者の高齢化、周辺地域の人口減少・少子高齢化、周辺の高速道・バイパス開通などによる前面道路の交通量減少、「道の駅」や直売所など周辺部との競合問題による利用者・売上げの減少、期間限定の指定管理者としての持続性のネック等があげられ、これらをいかに解決していくかの方向性が今後期待される。